

# 平成 22 年度に実施した認証評価に関する検証結果報告書の概要 (大学・短期大学)

認証評価の有効性や適切性について検証し、評価内容・方法等の改善に役立てることを目的に、平成 22 年度に実施した認証評価について、対象校及び評価担当者へのアンケートを実施。

## 【アンケート回収状況】

◇大学・短期大学機関別認証評価

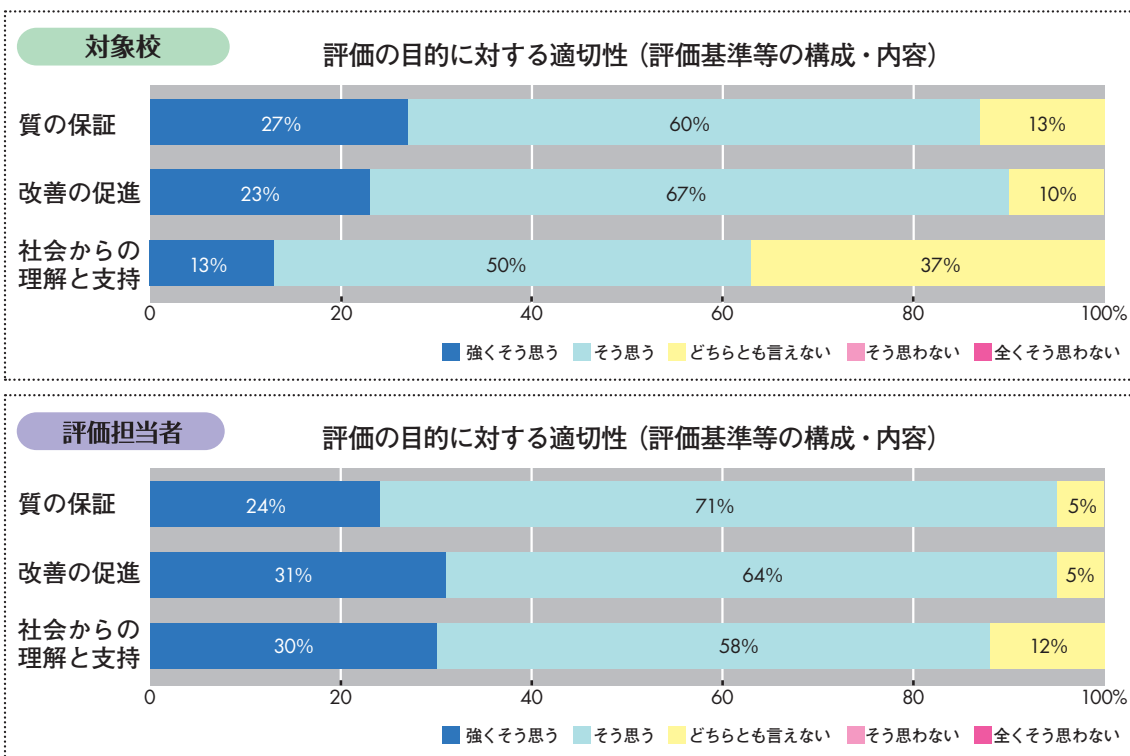
対象校 30 校（大学 25 校・短期大学 5 校）すべてから回答

評価担当者（部会構成員）76 名中 60 名から回答（回収率 79%）

## 1 検証結果の概要

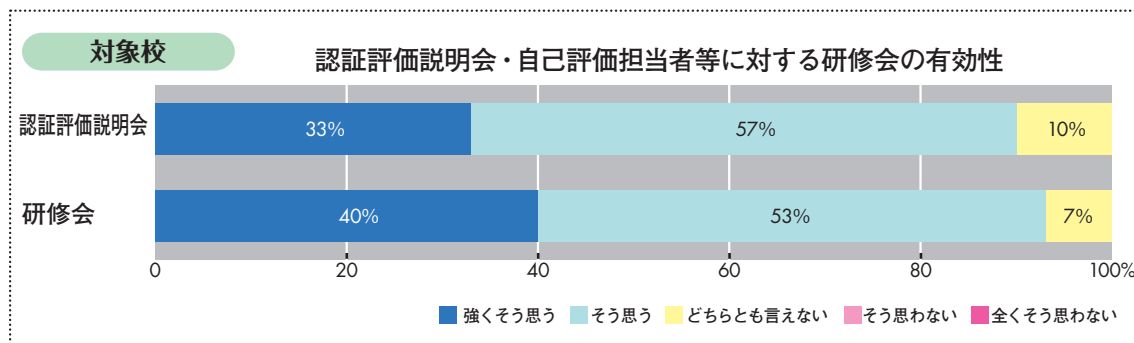
### 評価基準及び観点について

評価基準及び観点の構成や内容は、大学及び短期大学の教育研究活動等の「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして概ね適切なものであると考えられる。また、評価基準及び観点の構成や内容を、教育活動を中心に設定していることは適切であると考えられる。

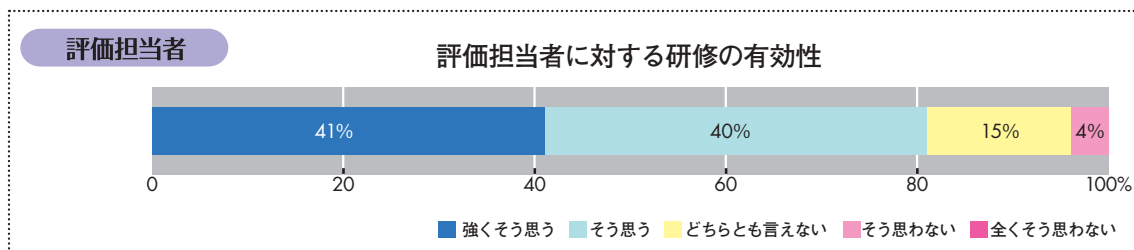


## 説明会・研修会について

認証評価説明会・自己評価担当者等に対する研修会は有効であると考えられる。なお、今後も引き続き対象校の意見も踏まえながら、対象校に配慮した説明会・研修会を実施していく必要がある。

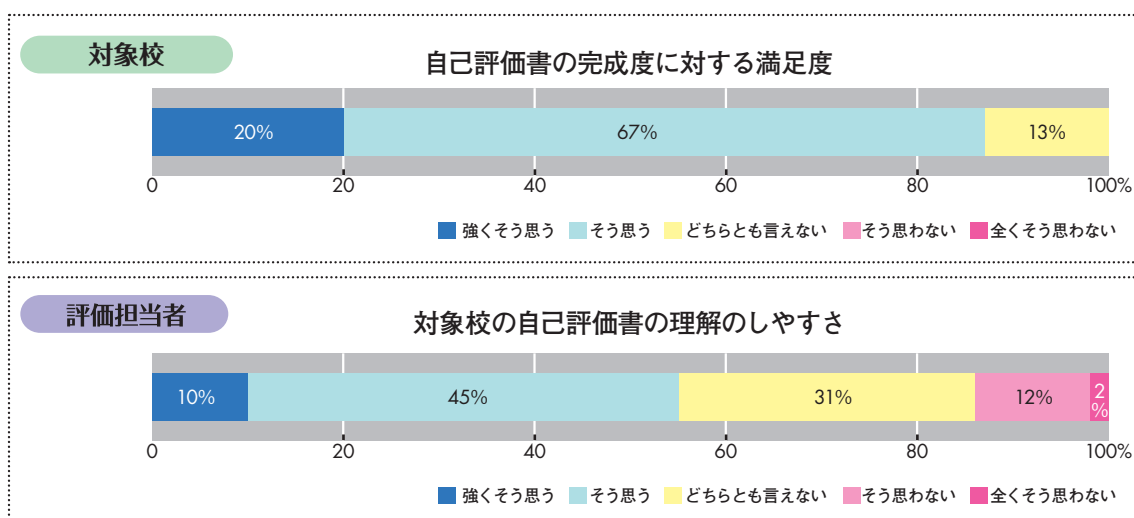


評価担当者に対する研修も概ね有効であると考えられる。なお、今後も引き続き評価担当者の意見も踏まえながら、より効果的な研修会を実施していく必要がある。



## 自己評価書について

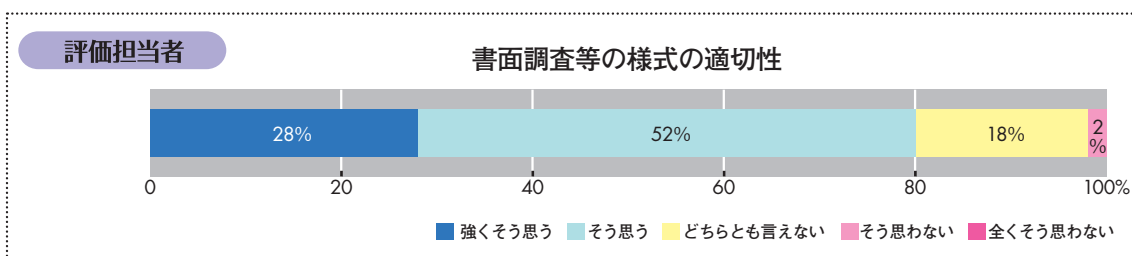
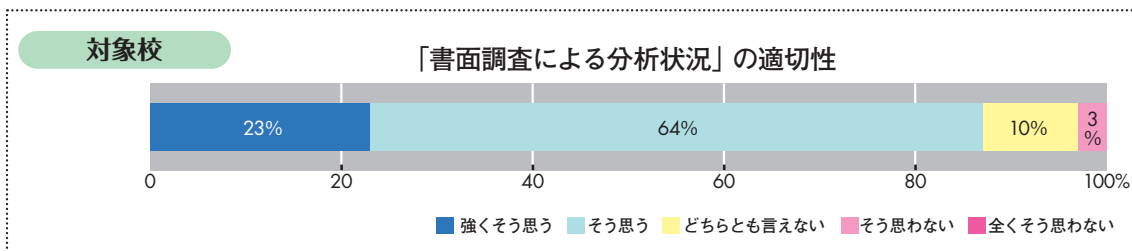
自己評価書については、完成度が高い自己評価書が作成されたと対象校が認識している一方で、評価担当者からは自己評価書の理解しやすさについて肯定的な回答が必ずしも多いとは言えない。機構としても、更なる改善のために、自己評価書を作成する際の留意点について説明を充実させるなど、すでに対応を進めている。なお、今後も引き続き対象校の評価基準及び観点の理解を深めることが必要であるとともに、対象校においても自己評価書の記述が明確で理解しやすいかなどを全基準を通してチェックする担当者を置くなどの対応が望まれる。



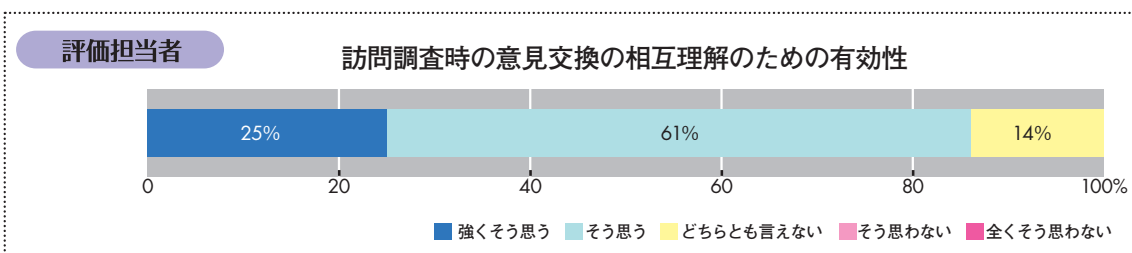
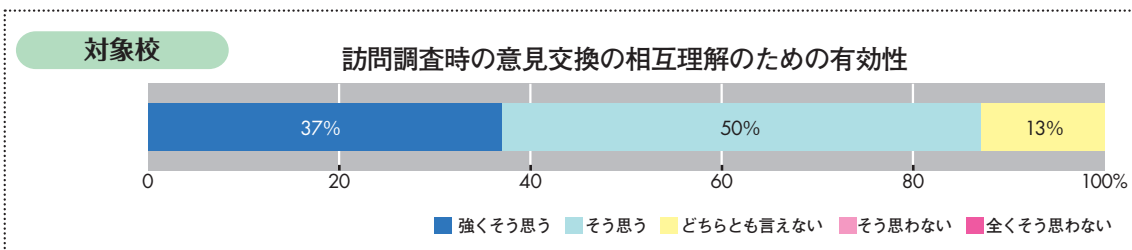
自己評価書の添付資料については、適切な根拠資料が概ね引用・添付されていると考えられる。

## 書面調査・訪問調査について

「書面調査による分析状況」の内容や書面調査票等の様式は適切であると考えられる。

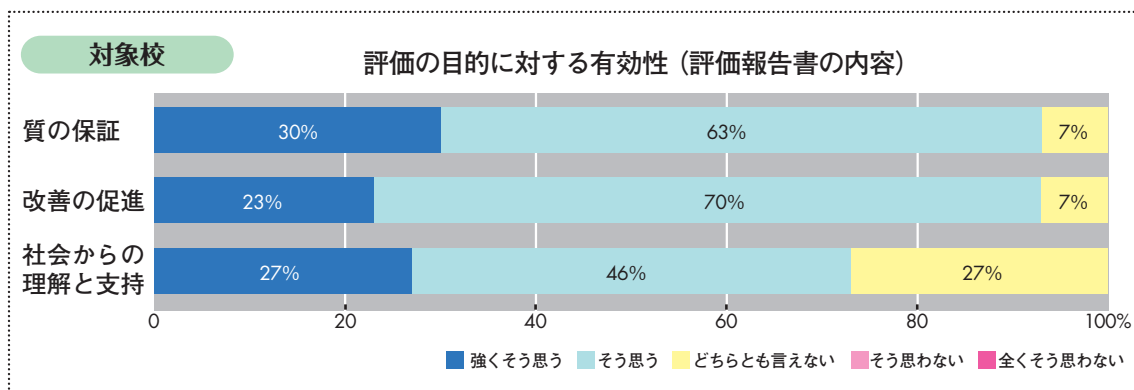


訪問調査の実施によって、対象校と機構の評価担当者との間で共通理解を得ることができたと考えられる。

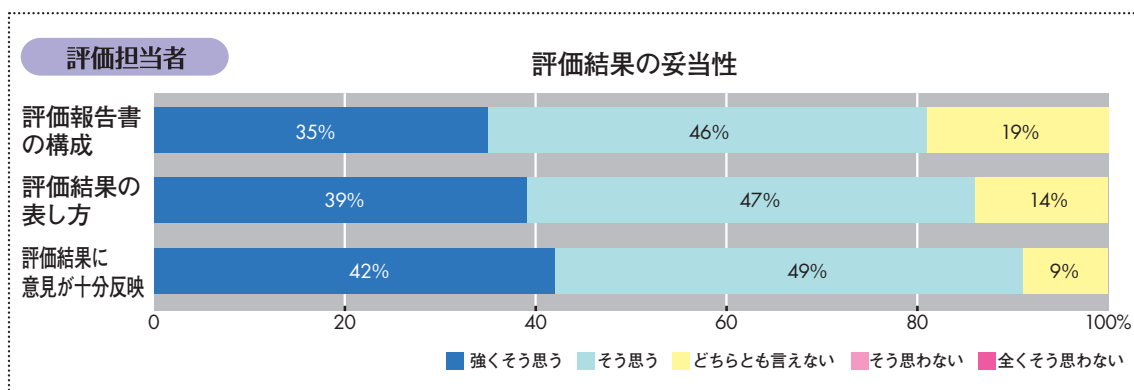


## 評価結果（評価報告書）について

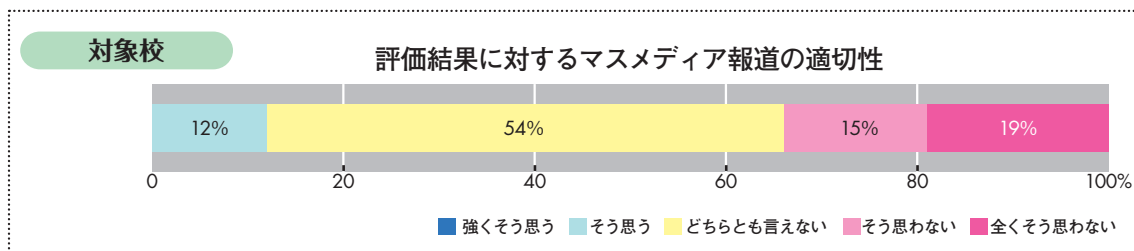
評価報告書の内容については、「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的や対象校の目的、実態、規模等に照らして適切なものであると考えられる。



評価報告書の構成、評価結果の表し方及び評価担当者の意見の評価報告書への反映についても概ね適切であると考えられる。

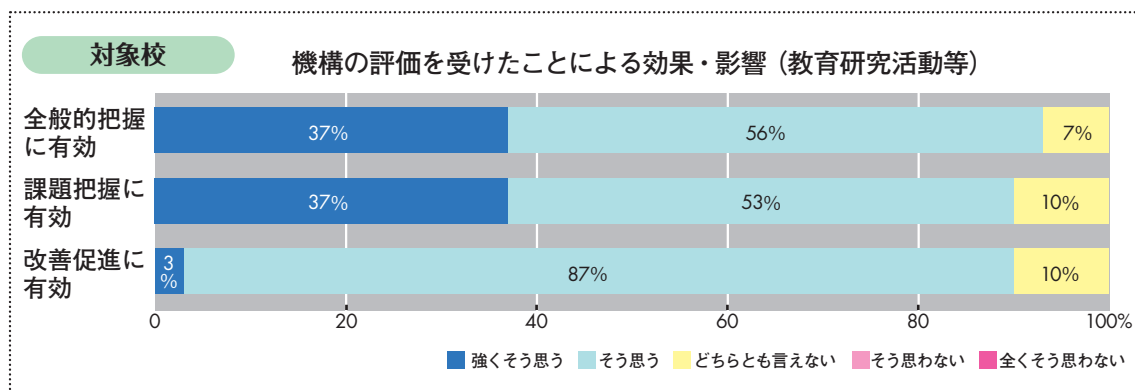


評価結果に対するマスメディア報道の適切性については、一部の対象校から否定的な回答も寄せられていることから、認証評価制度や機構の行う評価の趣旨や内容について理解が得られ、適切に報道されるよう、引き続きわかりやすく説明していく必要がある。

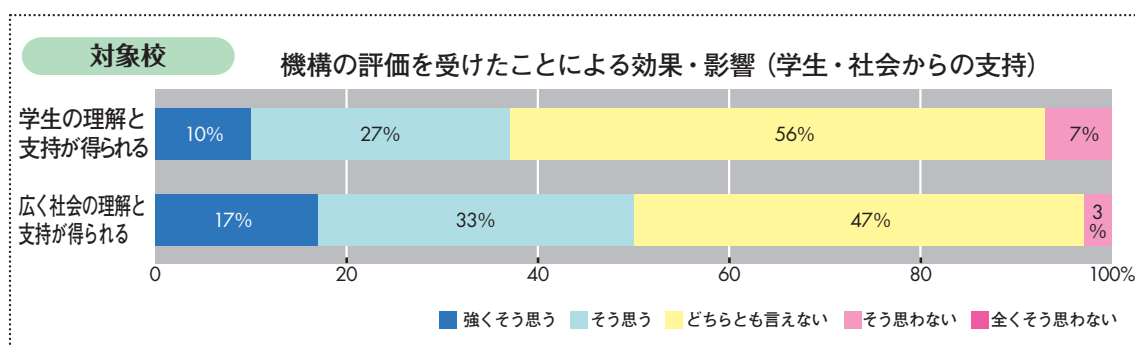


## 評価の効果・影響について

対象校が評価を受けたことは、教育研究活動等の状況や課題の把握、改善の促進に概ね有効であると考えられる。



対象校からは、学生や社会からの理解と支持に有効であるとする回答が必ずしも多いとは言えないため、機構としても積極的に情報を発信してもらえるよう説明会や研修会において促していくことが必要である。

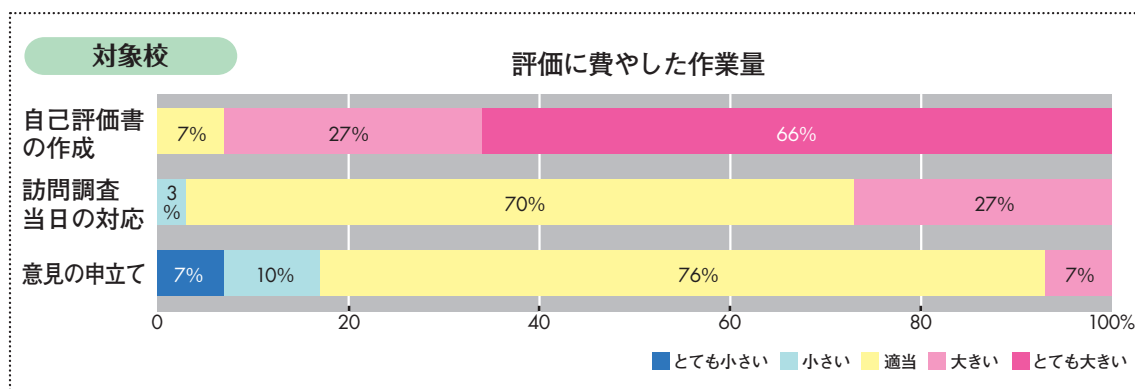


組織的な運営及び自己評価の重要性の教職員への浸透、意識の向上に概ね有効であると考えられる。

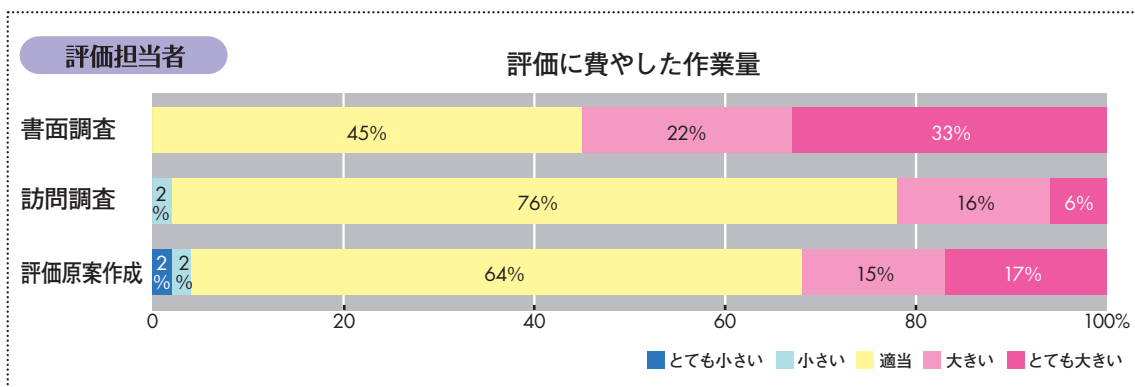
自己評価の実施及び機構の評価結果を踏まえた改善・向上への取組は、各対象校で着実に進められている。（具体的な改善事例は別紙1のとおり）

## 評価の作業量等について

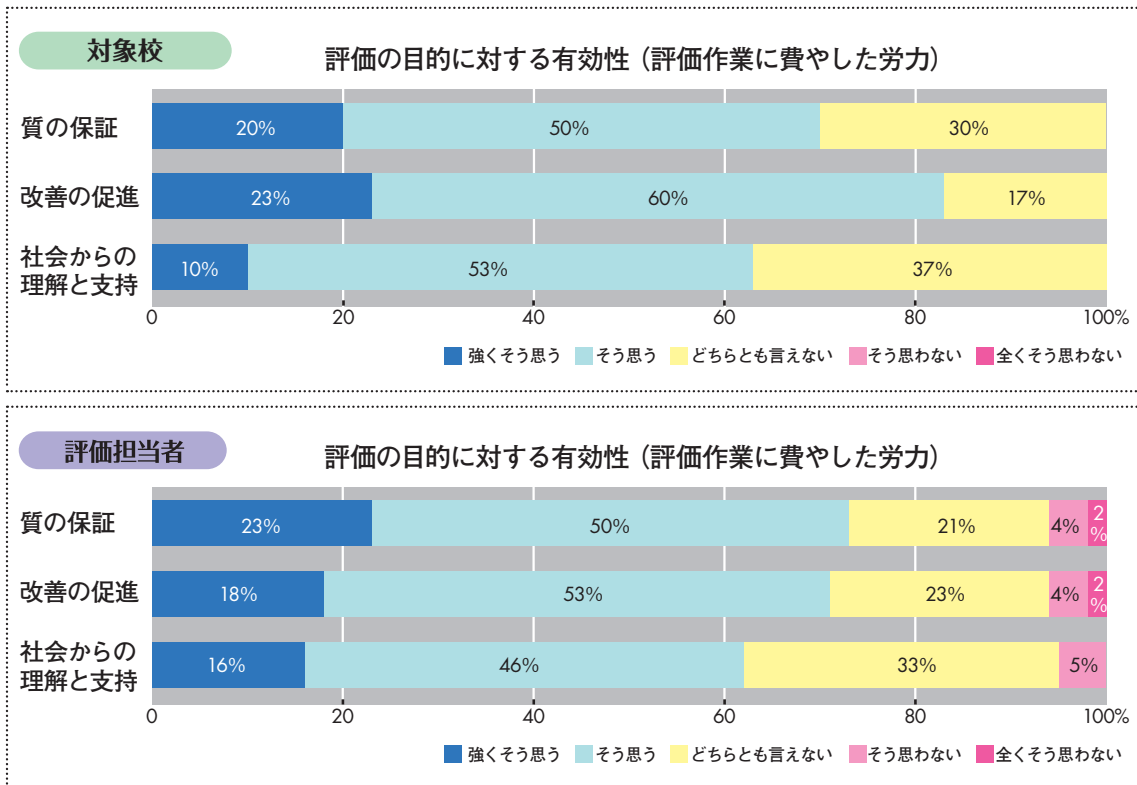
評価に費やした対象校の作業量については、訪問調査当日の対応、意見の申立てに係る作業量は概ね適切であると考えられる。なお、自己評価書の作成に係る作業量については、大きいとする回答も寄せられているため、対象校の一定の負担軽減に向けた検討を行うことが必要であるが、対象校が評価の経験を重ねることによる負担軽減も期待される。



評価に費やした評価担当者の作業量については、訪問調査及び評価結果（原案）の作成に係る作業量は概ね適切であると考えられる。ただし、自己評価書の書面調査に係る作業量については、大きいとする回答も寄せられているため、評価担当者の一定の負担軽減に向けた検討を行うことが必要である。



評価作業に費やした労力は、「質の保証」「改善の促進」「社会からの理解と支持」という評価の目的に照らして概ね見合うものであったと考えられる。





## 認証評価結果を受けた対象校の改善取組の例 (代表的なものを抽出)

- 教養教育の全学的実施に向けた基盤づくりのために、教養教育部会を中心に、現在の教養教育のカリキュラムの点検を進めるとともに、今後の教養教育の在り方についての全学的なコンセンサスの形成を目指すこととしている。
- 外国人留学生の受け入れのため英文パンフレットを作成した。その他、英語版ウェブサイト、連携大学院の整備を行うこととしている。
- 博士課程については、更に詳細な学位論文審査に係る評価基準を作成し、修士課程については、更に詳細な学位論文審査に係る評価基準を作成している。
- 従来より実践している進路先（就職・進学）への訪問等を全教職員でより積極的に取り組む体制づくりを進めていくことを確認するとともに、新たに、後援会誌を活用しキャリアガイダンスセンターからの情報（卒業後の支援）を積極的に掲載し支援強化を図ることとしている。
- キャリアカウンセラーを非常勤で手当とするなど部分的に改善を進めている。
- 平成23年度4月より、図書館について、開館時間の繰り上げや閉館時間の延長を実施している。
- FDや学生の学習支援を含めた教育を支援する組織として教育支援センターを開設している。
- ウェブサイトのアクセスを容易にするため、入試案内、保育学科サイトについて、CMS（コンテンツ・マネジメント・システム）を用いて整備している。また、継続して、トップページ以降の更新を計画している。

## 認証評価の改善・充実のための機構の取組例

### 評価基準関係

- 各年度の「認証評価に関する検証のためのアンケート」における対象校と評価担当者からの意見、中央教育審議会大学分科会における報告及び大学評価の国際的動向等を踏まえ、大学については、99あった観点を81とするなど、評価基準・観点等の整理・統合を行ったほか、「教育情報等の公表」に係る評価基準の新設するなど、評価の視点の見直し等を行い、平成24年度から新しい評価基準に基づいて評価を行うこととした。

### 書面調査・訪問調査関係

- 対象校の評価基準等の理解を深め、適切かつ効果的な自己評価が実施されるよう、平成24年度実施分から、『自己評価実施要項』に「観点对応する関係法令及び分析する際の留意点、根拠資料・データ等例」を記載したほか、関係法令等を満たしているか否かを確認する際の参考となる「関係法令等チェックリスト」を提供した。
- 各年度の「認証評価に関する検証のためのアンケート」における対象校からの意見、実際に提出された大学の自己評価書の文字数等を踏まえ、平成24年度実施分から、自己評価書の字数制限を全体で55,000字から70,000字へと緩和した。
- 大学が作成する自己評価書の構成について、平成24年度実施分から、基準ごとの「自己評価の概要」を削除し、対象校の負担軽減を図った。